

令和6年度第1回小松市地域公共交通活性化協議会議事録

- 日 時 : 令和6年6月26日(水) 9時55分～11時05分
○場 所 : 小松市役所7階 701・702会議室
○出席者 : 別紙

内 容

1. 開会挨拶

(副市長 越田会長)

- 新幹線開業以降駅周辺の人流が増えており、これからますます地域公共交通の果たすべき役割が大きくなっている。
- 効率化、最適化させて持続可能なものとして実装していくことが重要。
- ライドシェア、自動運転バスと全国的にお先進的な取組み開始しており、各種方面から関心・注目を集めている。

(事務局 本谷部長)

- 24名中20名の委員が出席しており、内、オンライン3名。後ほどオンラインから1名が途中参加と聞いている。本日の会議は成立する。
- 規約に基づき、会長が議長となり進行を行う。

2. 協議事項

- (1) 市内循環線のバス停新設、移設及びルート変更について
- (2) 木場潟線のバス停廃止及びルート変更について
資料に基づき、事務局(津田課長)より説明

【質疑応答】

(北鉄加賀バス株式会社 新谷委員)

- 変更の対象は市内循環線と木場潟線とのことだが、市内循環線では「CKD入口前」のバス停を設置し、木場潟線では設置しない、その理由は何か。
- このルート変更により、市内中心部で競合している部分があるため、本協議会以降にどのような影響があるか検討したい。

→ (事務局 津田課長)

- 地域の方1名の利用実績があり、どちらか一方を残すことで対応可能と考えており、便数の多い市内循環線を維持させていただきたい。
- 八幡会館を通してほしいとの地元要望もあることから、その辺の進捗と合わ

せて検討していきたい。

(小松市町内会連合会 北川委員)

- 八幡からは会館の前を通ってほしいとの要望が私のところにもあった。町の中を通ってもらうと利用もしやすいと思うのでお願いしたい。

→ (事務局 津田課長)

- ルート検討内容によっては若杉町にも影響が出るため、両町との調整が必要と考えている。ルートが決まれば報告させていただく。

(国土交通省北陸信越運輸局 新倉委員)

- 協議事項(1)について、本格稼働する工場の雇用拡大に伴う対応とのことだが、具体的な想定は地域の方1名の利用となるが、一般の方の通勤需要は想定されているのか。それとも代替の手段を考えているのか。

→ (事務局 津田課長)

- 1名というのは現在の利用者であり CKD を想定したものではない。CKD については、現在、雇用の確保を進めており、障害者雇用も想定されるため、公共交通を維持したいと考えている。また、雇用募集時においても公共交通が通っていることは募集に対して前向きに働くためその点も考慮している。運行開始後、利用状況によっては見直しも考える。CKD とは朝夕の通勤時間帯をやとりした上でのダイヤを設定している。
- 他の地域を聞いていると、一定のニーズがあれば企業側が送迎バスを用意するケースが多く、自治体としても助かると思うが、通勤需要に対して公共交通がどのように対応していくかフラットに考えていってもらいたい。

(日本海観光バス株式会社 西出委員)

- CKD 東門前がネーミングライツだが、入り口前はネーミングではないとの認識であっているか

→ (事務局 津田課長)

- そのとおり

【承認】

他に意見質問はなく、承認された。

(副市長 越田会長)

- 引続き事務局の方で地元と調整をお願いしたい。

(3) こまつ地域交通プランの一部改定について

資料に基づき、事務局（津田課長）より説明

【質疑応答】

（石川運輸支局 入口委員）

- 補足させていただく。この度、国の制度の変更により、地域公共交通計画の中に補助制度に係る路線を明記することを今月末迄に行う必要があるため、プランの改定を行うもの。

【承認】

他に意見質問はなく、承認された。

(4) 小松市地域内フィーダー系確保維持計画の策定について

資料に基づき、事務局（津田課長）より説明

【質疑応答】

意見質問なし。

【承認】

意見質問はなく、承認された。

3. 報告事項

(1) 小松市における公共交通の現状について

資料に基づき、事務局（津田課長）より説明

【質疑応答】

（国土交通省北陸信越運輸局 新倉委員）

- 路線バスの利用状況、補助金の状況を説明頂いたが、内容としては暗くなるものであったが、これまで通りでは難しい状況にあるということだと理解している。総論的に意見させていただくと、やはり公共交通は都市のまちづくりの軸となるものと捉えている。運行補助金は増加しているが、それに見合ったサービスが提供できているのであれば、補助額が上がるのが必ずしも悪ではないといえる。補助額が増えていてかつ利用者ニーズにマッチしていないのであればそれは行政負担として問題として捉えることになる。公共交通の赤字額だけではなく福祉施策的な観点では行政負担の捉え方も変わる。こういった形で分析は続けてもらいたい。8年度に向けた計画策定においては幅広い視点で取り組んでいただければと思う。

→（事務局 本谷部長）

- 我々も利用率を上げることで満足度が上がると捉えている。今のご意見を加

味しながら新しいプラン作成に取り組んでいきたい。

(小松市町内会連合会 北川委員)

- テレビで民間のバスも含めて公共交通がお互いに協力しながら運行していることを聞いた。小松ではまちづくり、各駅を中心にしたアクセスを考えてもらいたい。小松駅から栗津温泉へは直接バスで行く必要は必ずしもないと思っており、栗津駅からバスでアクセスできればよい。思いのある住民もいるのでその声を拾ってもらいたい。

→ (事務局 津田課長)

- 今年度実施予定のワークショップ等で対応したい。

(2) 自動運転バスの取組状況について

(3) 小松市ライドシェアの運行状況について

【質疑応答】

なし

4. その他

特になし